

氏名	佐藤 美由紀 (サトウ ミユキ)
本籍	北海道
学位の種類	博士 (老年学)
学位の番号	博士 第72号
学位授与の日付	2015年3月16日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	地域高齢者における社会参加促進型ヘルスプロモーションに関する介入研究 —アクションリサーチに基づく地域活動の創出とその効果—

論文審査委員	(主査) 桜美林大学教授	新野直明
	(副査) 桜美林大学教授	長田久雄
	桜美林大学教授	芳賀博
	北海道大学教授	佐伯和子

論文審査報告書

論文目次

第1章 緒言

- 1 長寿社会における保健福祉の課題と社会参加.....1
- 2 健康づくりの視点に立った高齢者の役割に着目した社会参加2
- 3 わが国における高齢者の社会参加促進型ヘルスプロモーションに関わる研究.....2
- 4 高齢社会に求められるヘルスプロモーションプログラムとアクションリサーチ3

第2章 研究目的

1 目的	5
2 社会参加の操作的定義	5
3 研究の枠組み	5
4 対象地域	5
5 研究全体のながれ	6
6 研究デザイン	6

第3章 研究Ⅰ 高齢者の地域社会における役割の見直しに基づく地域課題の解決に向けた住民の意識と行動の変容過程

1 目的	7
2 方法	7
1) 研究デザイン	7
2) 取り組み	7
3) データ収集と分析	10
3 倫理的配慮	11
4 結果	11
5 考察	14
1) 住民のコミュニティ・エンパワメントの変化の過程	14
2) 住民の変化に影響を及ぼしたもの	16
3) アクションリサーチに基づく社会参加促進型ヘルスプロモーション プログラムの有効性	19

第4章 研究Ⅱ 高齢者の地域社会における役割の見直しに基づくヘルスプロモーションプログラムによる社会への関わりや健康増進に及ぼす効果

1	目的	20
2	方法	20
	1) 研究Ⅱにおける取り組み内容	20
	2) 研究対象とデータ収集方法	21
	3) 調査内容	21
	4) 分析方法	23
3	倫理的配慮	23
4	結果	24
	1) 初回調査時における介入地区と対照地区の特性	24
	2) 取り組み 1 年後の社会活動, 近隣関係, 身体・精神的健康の変化	24
	3) 新たに創出された地域活動への参加状況	24
	4) 取り組み 3 年後の社会活動, 近隣関係, 身体・精神的健康の変化	25
5	考察	25
	1) 高齢者の地域社会における役割の見直しに基づくヘルスプロモーション プログラム実施 1 年後の効果	25
	2) 高齢者の地域社会における役割の見直しに基づくヘルスプロモーション プログラム実施 3 年後の効果	26
第 5 章 研究Ⅲ 住民及び支援者の視点による高齢者の地域社会における役割の見直しに 基づくヘルスプロモーションプログラムの効果と課題		
1	目的	29
2	方法	29
	1) 対象とデータ収集方法	29
	2) 分析方法	29

3 倫理的配慮.....	30
4 結果.....	30
1) 住民の視点による取り組みの効果.....	30
2) 支援者の視点による取り組みの効果.....	30
3) 住民の視点による取り組みの課題.....	31
4) 支援者の視点による取り組みの課題.....	31
5 考察.....	32
1) 住民及び支援者の視点による取り組みの効果.....	32
2) 住民及び支援者の視点による取り組みの課題.....	32
第6章 総合考察.....	34
1) 研究全体のまとめと意義.....	34
2) アクションリサーチによる高齢者の社会参加促進型ヘルスプロモーション プログラムの転用可能性.....	36
3) アクションリサーチによる高齢者の社会参加促進型ヘルスプロモーション プログラムの発展.....	36
4) 本研究の限界と課題.....	37
図表.....	38
謝辞.....	64
引用文献.....	65
資料.....	74

論文要旨

背景と目的

高齢者の社会参加は、身体面、精神面の健康に好影響がある。この社会参加を促進するには、集団全体に働きかけるポピュレーションアプローチの考え方に基づいた社会参加促進型ヘルスプロモーションプログラムが必要である。本論文では、全過程を通じて住民が研究者と対等な立場で研究に参加し、地域社会の様々な活動を通して住民自身が知識を生成して地域社会の問題解決をはかるアクションリサーチという手法に基づく社会参加促進型ヘルスプロモーションプログラムを実施して、地域活動の創出過程と、社会参加、健康への効果を量的、質的に検討した。

研究の概要

北海道の大都市に隣接する A 市 H 地区を介入地区、隣接する M 地区を対照地区として、地域活動と健康に関する初回調査を 2010 年、追跡調査を 2011 年と 2013 年にした。初回調査終了後に介入地区において社会参加促進型ヘルスプロモーションプログラムを実施し、介入 2 年目、3 年目にはフォローアップ介入を行った。一方、対照地区においては 1 年後追跡調査後に社会参加促進型ヘルスプロモーションプログラムの一部を実施した。そして、以下の三つの研究をおこなった。

研究Ⅰ 高齢者の地域社会における役割の見直しに基づく地域課題の解決に向けた住民の変化の過程：アクションリサーチに基づいた社会参加促進型ヘルスプロモーションプログラムを介入地区で実施し、地域活動の創出状況、創出過程を調べた。地域住民による話し合いを通じて高齢者の役割が見なおされ、公園散歩会などの新たな地域活動が住民主体で創出された。介入地区では「住民が共通の保健上の課題に気づき、その改善や well-being の実現を目指し地域に向けて行動を起こす」コミュニティ・エンパワメントが高まったと考えられる。

研究Ⅱ 高齢者の地域社会における役割の見直しに基づくヘルスプロモーションプログラムによる社会への関わりや健康増進に及ぼす量的効果：高齢者の地域社会における役割の見直しに基づくヘルスプロモーションプログラムによる高齢者の社会参加活動、近隣関係、心身の健康に及ぼす介入 1 年後の短期的及び介入 3 年後の長期的な量的効果を調べた。介入 1 年後には、介入地区においてコミュニティ意識の 1 つとして設定した地域貢献意識が向上していた。3 年後には、介入地区においてボランティア活動と近隣コミュニケーションが活発になっていた。

研究Ⅲ 住民及び支援者の視点による高齢者の地域社会における役割の見直しに基づくヘルスプロモーションプログラムの質的効果：介入地区の住民及び支援者の視点によるヘルスプロモーションプログラムの効果をフォーカス・グループ・インタビューにより質的に検討した。住民は、地域のネットワーク、地域に対する信頼、規範の向上などの変化を感じ、介入地区ではコミュニティ・エンパワメントが高まったと言える。支援者は、地域にはネガティブな反応があることを感じていた。

結論

地域全体への効果、他の地域への展開などの検討課題は残るが、対話を繰り返しながら高齢者のエンパワメントを引き出し、住民ニーズに基づいた役割を創出し、実践する活動モデルを示した。

論文審査要旨

提出論文について、主査および副査による数回の面談あるいは書類による討議が実施された。その結果、高齢者の社会参加という重要なテーマをとりあげた介入研究であり老年学的意義は大きく、形式、内容ともに博士論文としての要件は満たすと判断された。さらに、アクションリサーチという手法を用いた点、質的研究と量的研究の両面から検討している点、横断的検討と縦断的検討の両者がなされている点などで、研究の質、オリジナリティが高い研究であるという評価であった。また、今後、アクションリサーチの他地域の転用に関する検討を深めてほしいという将来の研究方向についての要望が出された。

最終的に、本論文は博士論文としての水準を満たしているという判断がなされ、合格と判定された。

口頭審査要旨

審査委員より、高齢者の社会参加という重要な問題に対し、住民主体のアクションリサーチという手法で介入研究を実施した点、膨大なデータを入念に分析してまとめた点でオリジナリティが高く価値のある研究という評価がなされた。

審査委員による質問に対しては適切な対応がなされた。具体的には、アクションリサーチによる介入を他地域でも行うために必要な点、住民主体でプログラムを検討する場合の問題点について質問があった。アクションリサーチの理念と今回用いたスキルの転用可能性があること、第三者としてのファシリテーターの重要性、偶発的な出来事だけでなく人口の将来予測などの地域特性を示すデータを動機づけに使うことなどが明確に説明された。今回の調査の介入地区における今後の展開に関しても質問されたが、行政サイドの見守り継続、住民による今回の経過の情報発信などを考えている旨の回答があった。なお、審査員より、アクションリサーチの転用性、一般化について、今後さらに研究を深めてほしいという要望があった。

最終的に審査委員の全員一致で合格の判定がなされた。